

# ラグビー日本代表戦 盛り上げろ

# 伝統校対決 集客トライ

## 福岡—修猷館 来月前座で定期戦



福岡市の名門高校が、新指揮官を迎えたラグビー日本代表の門出に一肌脱ぐ。5月5日に同市で行われる日本—アラブ首長国連邦戦の前座試合で、福岡高と修猷館高が定期戦を行う。伝統校の力でスタジアムを埋め、もり立てる。  
(前田剛)

両校ラグビー部の歴史は古い。福岡高は1924年(大正13年)に県内で最初に創部された。全国高校大会に37度出場して3度優勝。修猷館高は翌25年の創部で、49年に国体を制した。87年間も競い続けるライバル校の定期戦は20年ほど前から毎年4月に行われており、駆け付けたOBもプレーを楽しむ。

レベルファイブスタジアムで行われる日本代表戦は「HSBCアジア五か国対抗」の第2戦。4月に就任したエディー・ジョーンズヘッドコーチ(52)が国内で

練習に熱が入る福岡高ラグビー部員(福岡市博多区の福岡高グラウンド)と修猷館高ラグビー部員(福岡市早良区の修猷館高グラウンド)。

初采配を振るう一戦として注目される。

両校に協力を要請したのは九州ラグビー協会。5000人の集客を目指す。トップリーグでは九州勢同士の対戦でも3000人がやっとな。そこで、ラグビー部だけで600人以上のOBを抱える両校の動員力に着目した。

同市には全国高校大会で3連覇中の東福岡高があり、協会から最初に打診を受けた福岡高の牟田口享司部長(49)は「自分たちで良いのか迷った」と本音を漏らす。「生徒には貴重な経験になるはず」と決断、修猷館高の了解も取り付けた。

ともに県内屈指の進学校であり、高校からラグビーを始めた初心者も多い。しかし、意地がぶつかる定期

戦は好ゲームになるといふ。在校生や卒業生に広く来場を呼びかける今年には、ますます白熱しそうで、福岡高の高井勇貴主将(3年)は「低く当たる持ち味のタックルを見せたい」と意気込み、修猷館高の永富健太郎主将(3年)は「気持ちでは絶対に負けない」と闘志を燃やす。

キックオフは定期戦が午後3時45分で、日本代表戦

が同6時。チケットは前売り自由席の一般が2000円、同高校生以下が300円など。問い合わせは九州ラグビー協会(092・715・8172)へ。

読売新聞 (夕刊)  
4月21日 (土)